

世帯と人口

(2月1日現在)

世帯	44,115	(+ 32)
人口	119,196人	(+ 35)
男	60,874人	(- 12)
女	58,322人	(+ 47)

この数値は平成13年10月31日付けで総務省統計局が公表した平成12年国勢調査の確定数を基に推計しています。

えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

新鮮な「海老名いちご」を摘み取る尾上さん



えびな模様…中河内から

甘〜いイチゴをどうぞ

県内一の収穫量

子どもから大人まで人気の高いイチゴ。市内で収穫される「海老名いちご」は、296ト(平成12年調べ)と県内一の収穫量を誇ります。栽培農家も本郷・門沢橋・社家など南部に集中して、なかでも中河内地区は市全体の半分以上の収穫量を占め、農家数も最も多い地域です。

中河内いちご組合長の尾上一年(42歳)のハウスでは、これから4月ごろまでにかけてイチゴの最盛期を迎えます。約50坪のハウスを夫婦2人で栽培している尾上さんは、祖父の代から親子3代にわたるイチゴ農家です。品種は、とちおとめ・女峰(よほう・章姫(あきひめ)などで、この時期は、朝7時から摘み取りを行い、10時ごろからパック詰めにして出荷しています。「甘くて新鮮なイチゴ作りをめざし、病気や害虫の被害にあわないように気をつけています。今後は栽培面積をもっと増やせたらと思います」と話す尾上さんのおいしいイチゴ作りは続きます。

「海老名いちご」は、県内需要がほとんどで、市内のスーパー・小売店やグリーンセンターなどのほか、横浜・川崎・横須賀などの大需要地に出荷しています。需要地が近いこともあって、完熟した状態で出荷できることから、新鮮でおいしい品質の良いイチゴとして有名になってきています。

また、1月から5月ごろまで農家のハウスを開放し、摘みたてのイチゴが食べられる「いちご摘み」も好評で、市内はもとより横浜や東京からも訪れる人もいほど人気になっています。

市の南部地域の広大な耕地で、太陽の光をいっぱい浴びて元氣よく育つ新鮮な「海老名いちご」は、これからもますます、みんなに愛されていくことでしょう。

中河内 アラカルト

◎人口=(平成14年2月1日現在)
760人(男=328人・女=432人)

◎世帯=177

◎面積=0.61平方*
[市全面積 26.48平方*]

◎地名の由来

上河内と下河内の中の河内の意。河内とは「山や台地にはさまれた河畔の平地」。それから転じて「川がはらんすれば川の内になってしまうはらん源」の呼称ともなる。また、広い水田耕作地になることから「耕地」の表記があらわれることも多い。相模川沿岸低地に位置して川内の地形を意味し、同時に広大な水田地帯の耕地という土地利用も表す地名。